

研 究 紀 要

教 育 相 談 部 会

〔講 演〕

「チーム学校」の構築 ～教育相談の普及と定着を求めて～

日本教育カウンセラー協会理事

日本スクールカウンセリング推進協議会理事

文教大学・実践女子大学 非常勤講師

藤川 章

1

部 会 の 動 き 7

研 究 テ ー マ 8

紀要編集委員 松尾英智（青森県立八戸工業高等学校）

教育相談部会

実践発表 1

「チーム学校」の構築

日本教育カウンセラー協会理事
日本スクールカウンセリング推進協議会理事
文教大学・実践女子大学 非常勤講師

藤川 章

1 はじめに

(1) 「慣れる」ことに油断してはいけない (早稲田大学名誉教授 菅野純)

戦争、感染症パンデミックのようなクライシスイベントに襲われたとき、人は自分の心を守るために心を鈍化させる。「慣れる」とは、心を鈍感にすることで心を守る一時的な無意識の対応である。よって、クライシスイベントが去った後に症状が出てくることがある。大人より子どもが心配で、秋田大学の論文では、自我が確立している大学生でも、1割の学生は鬱状態だと報告している。学校で笑ってるようであっても、そこには大きな不安を抱えているということを知っておかなければならない。

「慣れる」は、精神分析の「抑圧」に置き換えられる。「抑圧」が限度を超すと変形して出現(爆発)する。行動化、心理化、身体化が表れる前に、言語化しておくことが大切である。生徒たちの言葉をしっかり受け止めることが私たち教員の役目である。学校の全教員が不安を受け止めることができれば、重大な行動化、心理化、身体化を防げるのではないかと思う。

<事例1>

7月13日(金)、中学2年の女子生徒が部活動終了後、自宅で首をつり亡くなった。この突然のクライシスイベントに対応するため、学校側は翌週の月～金曜日までの5日間、カウンセラー5人を派遣して生徒の対応にあたった。しかし、全校生徒約500人に対して、相談者は延べ35人しか来なかった。身近な突然の死に対して、人は動揺するが、我慢すると、後になって抑圧したものが出てくるのではないかと思う。カウンセリング活動は、色々な場面に立ち会い、悩みと出会う。それを解決できなくても、受け止めて聞いてあげることが大切である。相談者は、聞いてもらった経験やまた相談できると思うだけで、勇気や前に向く力が出てくる。

(2) AI革命…1956年(アメリカ・ダートマス)

レイ・カーツワイルによると、2045年シンギュラリティ(技術的特異点)、「AIが人間を超える日」が訪れると予言している。マイケル・オズボーン准教授は『未来の雇用』の中で、米国労働省データの702の職種が、コンピューター技術によりどれだけ自動化されるかを分析した。その結果、今後10～20年程度で約47%の職種が消えてなくなるとした。しかし同時に、それでもなくなる職業Best25も挙げている。学校関係では、20位に小学校教員、22位に小中学校教育管理職が並ぶ。なぜ、小学校なのか。それは、人とのつながり、コミュニケーションを大事にしている職業であり、そういう職業は残るのだ。

マイケル・オズボーンによると、「AI時代に生き残るために必要な力」は、創造的な思考(クリエイティビティ、細かな創意工夫)とソーシャルインテリジェンス(コミュニケーション、協調性)だと語る。

井上智洋駒澤大学教授は、ソーシャルインテリジェンスをさらに2つに分け、マネジメント力とホスピタリティとした。マネジメント力は小中学校の管理職や学校経営、学級経営など、まさに人間が担う仕事である。また、ホスピタリティは生徒に対する共感的理解、つまり「カウンセリングマインド」ということである。

さて、「カウンセリングマインド」という言葉はどこへ行ったのか。

<カウンセリングマインドとは>

- ・相手の立場に立って、その人の考えや感情・行動を受容的・共感的に理解し、自主性を尊重しようとする態度のこと。(河村茂雄 早稲田大学)
- ・ワンネス・ウィネス・アイネス(共感的理解、自己開示、自己主張)(國分康孝)

1998年中央教育審議会答申は「新しい時代を拓く心を育てるために」の中で、心を育てる場として学校を見直そう、カウンセリングを充実しようとして表現した。

- ① スクールカウンセラーの活用（SC活用調査研究1995年）
- ② 教員は「カウンセリングマインド」を身につけよう
- ③ 「心の居場所」としての保健室

「すべての教員にカウンセリングマインドを」が合い言葉となり、日常的に生徒と接する教員が、生徒の様々な相談に応じ、問題行動の予兆となるサインに気づき適切な手だてを講じること、問題行動等を通じて周囲の助けを求めている生徒に、的確なケアをするためのカウンセリングマインドを持つことが重要であるとした。しかし、学術用語ではない「カウンセリングマインド」は徐々に言われなくなり、消えていった。

●カウンセリングマインドは不要か？

カウンセリングマインドという言葉が消えたと同時に、教育相談も学校現場から消えた、または後退したように思う。教育相談関係の研修や研究会は減少、または消滅したりしている。最近の若手教員だけでなく、ベテラン教員の中にも、教育相談はSCにつなげたら終わりと思っているケースがあり、自分たちのものではないと考えているところがあると感じる。教育相談は、SCが来たからそこに任すのではなく、色々な専門家とつなげたところからスタートするのである。

SC（臨床心理士）は「心の専門家」、「個人の心の専門家」であり、教員は「集団の心の専門家」とであると國分先生は語る。悩みに対して「個人レベル」と「集団レベル」の両方が合致して初めて生徒を支援できる。それが「チーム学校」ということであり、すべての教員がカウンセリングマインドを持って行動することが望ましい。

2 教育相談コーディネーターの役割

教育相談コーディネーターは、学校内外の連絡調整、ケース会議の開催、支援計画推進状況確認などを担い、現状では、担当教員を追加で配置したり、教育相談主任や副校長・教頭及び主幹教諭や養護教諭または特別支援コーディネーターが兼務したりしている。

令和2年度都道府県別不登校生徒数率と中途退学生徒数率をみると、青森県はどちらも他県に比べて非常に少ないことがわかる。その理由を考えてみると、青森県の先生方は、生徒1人ひとりと親身になって関わる先生が多いからだと思う。色々な問題を抱える生徒がいるが、生徒は話を聞いてもらうだけで安心する。個人個人に良心を持って接したいと思っている人や同じ志を持って交流したいと思っている人が各学校にいるから、それが生徒に伝わっているのだと感じる。まさに、本日の研究会が開催されているという事実が、不登校・中退の少ない理由の1つであると考えられる。

一方、不登校は長期欠席の1つである。長期欠席の理由には、病気、経済的理由、新型コロナなどがある。青森県の高校の場合、不登校や中退は少ないが長期欠席の病欠が45%が多い。今後は新型コロナによる欠席も加わり、全国的にみても不登校の割合は増えていくことが予想される。我々はこれにどうやって立ち向かっていけばいいのか考えなければならない。

H18 国立教育政策研究所の「高校不登校調査」は、中学時代に不登校だった生徒が、高校入学後に改善された例について、高校の取り組みを調査した。それによると、高校では入試の合格発表直後から中学校を回って生徒の情報収集をする、保護者を交えて説明会を行う、面接週間を設けるなどの積極的な取り組みを行っていた。また、得られた情報は教員間で共有する仕組みがあり、生徒をサポートする体制ができていたことがわかった。

3 アセスメント（早期発見）…学校現場では生徒理解と置き換えられる

アセスメントの方法は、観察法（複数の教員の観察）、テスト法（標準化されたもの）、面接法がある。標準化されたテスト法としてはQUがある。その中の「学級生活満足度尺度」では、いじめにつながる小さな芽のような情報が得られるが、最近はその項目の点数そのものが減っており、いじめは減少していると推測できる。

「いじめの発見」は担任が10%、本人の申し出が18%、本人の保護者が10%、アンケートが53%である。つまり、「いじめの発見」はアンケートによってできているので、アンケートを工夫することが大切である。京都府では「悲しいこと調査」というタイトルでいじめに関するアンケートをとっているため、幅広く情報を集めることができる。いじめの認知件数が多くなれば、対応や取り組みも早くなる。

4 初期対応

（1）共感的理解

「いじめの発見」は担任が10%だが、一度いじめられた生徒が相談する相手は担任が68%でトップである。このように、担任が入り口になることが多いため、すべての教員がカウンセリングマインドを持って受容的・共

感的に話を聞けることが大切である。そうなれば、いじめによる自殺や不登校などの重大事態は防げるはずだ。

●カウンセリングの三段階 コーヒーカップモデル (國分康孝)

- ①リレーションをつくる…自己理解 (来談者中心療法)
- ②問題の核心をつかむ…精神分析理論
- ③適切な処置をする…行動理論 (行動療法)

ベテランの教員ほどリレーションを飛ばして、自分の経験から話を始めてしまうことがある。そうすると相談しに来た子どもたちは不安になり、追い詰められ、話を全然聞いてもらえなかったという気持ちになるので、三段階を丁寧にすすめることが大切である。



コーヒーカップモデル
(國分康孝)

●カウンセリングの基本五法

- 1 受 容 …「うん、うん、なるほど、そうなんだ、ほおー、それで」
(なおそうとするな、わかろうとせよ。事実ではなく、感情にシフトする)
聞きながら、辛い気持ちを受け止める。辛いことを一緒に味わい、感情を共有する。
- 2 支 持 …「うん、わかるよ、それはそうだ、僕だってそうするよ、誰だってそうだよ」
言語的・非言語的に肯定、承認する。気持ちに寄り添う。
- 3 繰り返し…「がっかりした、悔しかった、なるほど、～ということなんだね」
(単語を繰り返す、要約して繰り返す)
繰り返すことで、相談者がわかってくれたと感じやすくなる。
- 4 明確化 …「忙しいですか？何か話があるの？」
まだ言葉にしていないことに焦点を当て、言語化していく。
- 5 質 問 … 相手に関心を持っていることを伝える、情報の収集、問題を明確にする。
本人が自覚しないことを明確にして、解決に向けての情報をさらに集める。

このカウンセリングの基本五法は、「カウンセリングマインド」とともにすべての教員に身につけてほしい力であり、それによって重大事態の未然防止にもつながる。

(2) ケース会議 (ケースカンファレンス)

<ケース会議のマニュアル> (情報がわかっているほうがいいもの)

- 1 問題の概要…起きている事象を中心に、時系列に従って表す。
- 2 本人の状況…基本的事柄 (生年月日、年齢、学年、性別)、生育歴・生活歴・病歴など (わかる範囲で)、その他 (性格傾向、友人関係、部活動、生徒指導上の問題点)
- 3 家族環境 …父母、兄弟姉妹など家族関係や人間関係、経済状況、住居・部屋の状況、地域での家庭の様子、父母、祖父母の交流関係
- 4 これまでの指導・対応の経過…関係機関 (児童相談所・警察・病院・家庭裁判所など) との連携ポイントを押さえて要約する。

ケース会議によって情報を共有し、短い時間で効率よく問題解決できる組織的なケース会議が大切である。こういう情報を集めて初期対応にあたる。

(3) 関係機関 (外部機関) との連携

学校が外部の関係機関と連携する可能性が高いものに関しては、先生方が見やすい場所に一覧表にして掲示しておくとうい。また教育相談だけでなく、事故が起きたときの病院や、相手の担当者の名前を知っておくことも重要である。名前と名前でわかる関係性が日常的にできていると、何か起きた時の対応は非常に早くなる。

●関係機関との連携 (連携に必須の配慮点)

①機関について知っておく (物理的…場所、機能的…何ができるのか)、②学校は最大限の指導・援助を行っている (任せきりにならない)、③校内の指導体制を確立する (共通理解、連携・連絡の役割分担)、④保護者との十分な連絡をとる、⑤指導目標、指導方針の確認する、である。①と②は特に大事にしたい原則である。

5 未然防止 (教育的予防)

個人と集団に分けて、不安やストレスなどに対する未然防止について考える。ストレスとは生理学者セリエの

概念で、私たちは普段あまり意識していないが、それに気づくことで対処法がわかる。

(1) 個人 サイコエジュケーション (心理教育)

● ストレスマネジメント教育

- 1 ストレスの概念を学ぶ … ストレッサーに対してストレス反応が表れる。H21 厚生労働省調査によると、不安や悩みがあると答えた高校生は 84.9% だった。ストレスは誰もが抱えるもので、それをうまく乗り越えることが成長であり、私たちはストレス耐性を身につける必要性がある。
- 2 自分のストレスに気づく… 自分の SOS を自覚する方法として、アンケートの実施やチェックリストを活用するとよい。
- 3 ストレスの対処法を学ぶ… リラクゼーション法や呼吸法のほか、行動的カタルシスや言語的カタルシスも効果的である。サンドバックを叩く、好きなスポーツをヘトヘトになるまでやる、思い切り歌う、話 (愚痴) を聞いてもらうなどがある。

<事例 2> おしゃべりウィーク

夏休み前に全校生徒を対象に行った取り組みである。生徒は、担任以外の教員を 1 人選び、15 分おしゃべりする。話題は生徒が準備し、悩みがなくてもいい。教員は生徒の気持ちに寄り添って対応する。その後の生徒の評判もよかったが、教員からも新鮮な気持ちで向き合えたという反応が多かった。

「話を聞く」というのは、ある程度トレーニングが必要である。人とのつながりができる、安心してしゃべれる場面を設定することは、ストレスマネジメント教育において有効である。

(2) 集団 絆づくり (SGE と SST)

● SGE (構成的グループエンカウンター)

東京都教育委員会では、8 年前から定時制高校の中退防止として年 3 回 SGE を導入している。コミュニケーションは人間関係の基盤となるため、SGE は有効であるが、中にはコミュニケーションが苦手な人もいる。

コミュニケーション能力とは、相手の話を聞き、理解する「受信」と、自分の考えや感情を的確に伝える「発信」の組合せであるから、「話すこと」が苦手であれば、「聞くこと」が上手になるとよい。コミュニケーションには「自己開示」と「他者理解」があり、自己開示が苦手であっても他者理解が上手になると双方が行き来して、コミュニケーションが上手になっていく。

<演習 1> 2 人のハートはピットリンコ?

ハートの中の質問 10 個に対して、どちらかを選んで丸をつける。終わったら、隣の人 (周囲の人) と答え合わせをし、合った数を数える。終了後、一緒に活動した相手の名前を聞いて用紙に名前を書く。入学式直後や進級直後にやっても盛り上がる。しかし長く続けて自由度が高まると、知り合いが多い生徒とそうでない生徒がいる中で、人によって差が出てくるので注意が必要である。

QU の結果から、居心地のよいクラスの 2 大原理は、① 友達関係をつくること、② ルールの確立である。この場合の「ルールの確立」とは、教員にとってやりやすいルールではなく、生徒どうしが活動するとき不安にならないようなルールづくりである。

構成的グループエンカウンターは、人数、内容、時間、ルールを構成する 4 本柱であるが、学校で行う場合は、ルールをトップに持ってくると成功しやすい。

<演習 2> 質問アドジャン

4 人グループをつくる。あらかじめ準備した質問に対して、じゃんけんの要領で全員が出した指の数を合わせた番号の質問に答える。パスあり、面白い答えも馬鹿にしない。ほかの場所で、この話をしない、と決める。

ルールがなくても楽しい活動になるのだが、楽しい活動の中にルールがある、だから安心できた、という経験を繰り返すことで、集団にルールがあることは当たり前だと定着させる。

<演習 3> コンビニ店長、無人島

グループをつくり、全員がコンビニの店長になったつもりで面接に来た人物 A~F の中からそれぞれの考えを出し合って 2 人を選ぶ。意見が合わなかった場合は、多数決やじゃんけんではなく、相手のいい意見を認めながらまとめていく。そうすることで最後には 1 つの結果にたどり着く。似たエクササイズに「無人島」がある。

これらは共通のテーマについて協力してやり遂げることを目的としている。多数決やじゃんけんに頼らず、自分の意見と他人の意見を総合して、良い点や妥協点を話し合うことで、意見がまとまった時の達成感を味わい、結果についても納得できるようになる。

<演習4> ~さんの☆カード、気になる自画像

演習1~3の次に行く。フィードバックして自己理解を深め、人間関係を深めることを目的としている。

エンカウンターの本には年間15時間で計画しているものもあるが、学校ではそんなに時間を取れないため、行事の事前事後指導やその一部の時間を使って、効果的に利用することも可能である。

6 支援体制（チーム学校）

（1）事例研究（ケーススタディ）

事例研究とは、具体的な事例（事故、事件、出来事）について、情報や資料を収集し、あらゆる観点から分析・討議することを通して、問題点を究明したり、解決策を考案したりすることで、約100年前、ハーバード大学で法律学の判決を学ばせるために開発された。

●事例研究の意義

事例研究は、特別な問題、事例、現象などの分析を通して普遍的な問題への対応策を見いだすことができる。また、初学者の教育、訓練（トレーニング）になる。→（ケーススタディ：開発的）さらに、現在進行中の事例の解決策を見いだす。→（ケースカンファレンス：問題解決的）

●事例研究の方法

ハーバード式、シカゴ式（ケースカンファレンス）とインシデントプロセス法（ケーススタディ）がある。

【ケースカンファレンス】

ハーバード式は「問題点は何か」「その事実と原因はどこにあるのか」「その対策はどうか」の手順で、問題解決能力を高めていく目的で行う。シカゴ式は、必要最低限の情報を入れて、簡潔に作成した事例をもとに行う事例研究法。研究のねらいは、事例の中にある教職員や学校が行った指導上の問題点を指摘し、その改善策を考えることにある。ハーバード式の手順を少し簡単にしたものにあたる。

【インシデントプロセス法】

事例提供者は、全容を話すのではなく、発端となる小さな出来事（インシデント）だけを提示する。参加者は質問することによって、出来事の背景や原因となる情報を収集し、問題点を分析し、対策を考える。

この方法のねらいは事例研究会が陥りがちな傾向、すなわち事例報告会にならずに参加者全員が自ら「正確な情報を収集し」「情報を分析して問題の核心を突き止め」「解決のための方策を決定する」力を養うことにある。

<特徴>

- ① 参加者1人ひとりが問題解決の当事者として、主体的、積極的に事例研究できる。
- ② 参加者が共有体験を通して解決法を考えることにより、その後の実践的な活動に結びつきやすい。
- ③ 質疑応答が事例の事実について行われるので、発表者の対応への批判になりにくく心理的負担が少ない。
- ④ 事例の資料が少なく済む。

<事例3> インシデントプロセス方式の演習

中1男子。身長170cm。同学年の中では大柄。小3から空手をやり、地域大会3位入賞。体力は自信がある。中学校入学直前、大阪から東京へ転居。友達がいないうちで入学。入学後、積極的に自分から友達に関わり、5月下旬の運動会で活躍し無事終了。本人も家族も楽しい中学校生活と思っていた。

6月初旬、本人が泣きながら帰宅。母親が聞いても理由を言わず、自分の部屋に閉じこもって出てこない。両親が部屋で理由を聞くが、答えが出てこない。本人は「もう学校に行きたくない」翌日学校を休む。担任から連絡が入り、母親から「本人が学校に行きたくないと言っている」

冒頭に発表者が5分だけ話す。この方式は、何が起きたのか、参加者からの絶え間ない質問により段々と全容がわかる。主役は参加者メンバーの質問である。始めに20分位の質問の時間をとり、何が起きているのかを明らかにする。次になぜそうなったのかをグループで話し合い、今ある情報を基にして、解決しなければならない問題を話し合う。ケース提案者が何を解決したいと思っているのか、解決すべき問題は何なのかを話し合う。

【検討事項】

- ・生徒たちの転校生に対する排他的な雰囲気をもこのままにしておけない。

- ・学校の窓口である担任と学年主任が生徒の相談に親身になってくれない。学校体制をどうすればいいか？

【解決策】

- ・構成的エンカウンターを使って、クラス内の人間関係をつくる。個の尊重を認め合う関係性をつくる。
- ・学校側に、親や生徒が話しやすい別の人物をつくる。

この方法は20人程度で実施すると、全員が質問するので主体的にケースに関わるという形がよい。また、この事例は過去の出来事なので気楽にでき、頭の中でトレーニングできる。トレーニングしたことが、実際のケースになった時、初任者であっても「僕はこう思います」とみんなの前で発言できる。事例研究法という形になっているが、スタディとカンファレンスを分けて、全員がスタディして、その経験を基にしてカンファレンスを全員参加で行うというステップが私の提案である。

<事例4> シミュレーション方式の演習

5月下旬、警察から電話。3年女子生徒Nさんの安否確認の要請。担任によると、Nさんからは、朝様子をみてから登校すると電話があったが、現在登校していない。

警察によると、Nさんのマンションから2人の女性が飛び降りたと通報あり。現在確認中。

明日は学校の運動会。Nさんは運動会を嫌がっている様子があった。また、直前にあった同窓会で、親友に裏切られた感情を持っている。

この後、私たちは何をすべきか考えてほしい。また、明日の運動会は実施してよいか検討してほしい。

【やるべきこと】

- ・女子2名の安否確認 →飛び降りた生徒は命の別状なし。2人目と思われたものは、抱き枕だった。
 - ・運動会を実施するかを検討 →運動会が今回の原因だと決まらないうちは中止できない。もし、運動会を中止にすれば、「なぜ中止か？」が大問題になり、Nさんのプライバシーが守れなくなる可能性がある。実際、運動会だけが原因ではなかったので、実施すべきである。
 - ・女子に対するいじめや周囲の関係性 →所持品から男子によるいじめを訴えるメモは見つかったが、同時に「いじめによる自殺」ではないこともわかった。母親との関係が上手くいっていないことが原因だった。
- このケースでは、①短期目標…被害を最小限に食い止める。②中期目標…彼女が元気に学校生活に戻ること。
- ③長期目標…学校で激しい行動に移さないような防止策を考えることが挙げられる。現実起きたことなので、ドキドキしながら、誰もが主体的に関われる事例である。

(2) ロールプレイング(役割演技) 実習

エンカウンターは感情が伴う洞察、胸にグッとくる気づきが大切である。思考で理解したことは忘れるが、ハラハラドキドキしたことは忘れない。そのため、疑似体験はトレーニングとしてとてもよい。

ロールプレイには、サイコドラマとソシオドラマがある。

<演習5> シナリオ・ロールプレイ(受容と支持)

3人1組で行う演習。相談者、聞き役、観察者に分かれてシナリオを実践し役割を交代する。教員が生徒と向き合えるようにシミュレーションし、いざという時、最高のパフォーマンスができるように演習してほしい。

7 教育相談と生徒指導

生徒指導はガイダンス、教育相談はカウンセリングと訳されたが、アメリカではガイダンス&カウンセリングと一体化されている。生徒指導と教育相談は車の両輪論や、一部重なり論や包括論など、様々定義されるが、生徒指導の先生方が教育相談の力を持って生徒に接することが大切だと考える。

教育相談はワンネス、ウィネス、アイネスの順に進めるが、生徒指導はアイネス、ウィネス、ワンネスの順である。

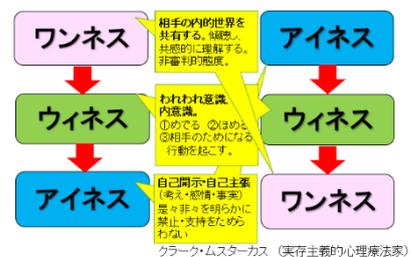
ワンネス…相手の内発的世界を共有する。傾聴し、共感的に理解する。
非審判的態度。

ウィネス…自我意識、身内意識。めでの、ほめる、相手のためになる行動を起こす。

アイネス…自己開示・自己主張(考え・感情・事実)是々非々を明らかに禁止・支持をためらわない。

順番が違っただけで、教育相談と生徒指導は一致する取り組みである。つまり、「カウンセリングマインド」を持って生徒に接することが重要である。

教育相談 と 生徒指導



クラーク・ムスターカス (実存主義的心理療法家)

部 会 の 動 き

自 令和4年4月

至 令和5年3月

令和4年 6月15日 令和4年度第1回役員会
 9月 1日 令和4年度第2回役員会
 12月 7日 令和4年度第3回委員会

会場 青森県総合社会教育センター

会場 青森県立図書館

会場 青森県総合社会教育センター

第36回 研究大会 講座 一 覧

	講 演
テ ー マ	「チーム学校」の構築
講 師	日本教育カウンセラー協会理事 日本スクールカウンセリング推進協議会理事 文教大学・実践女子大学 非常勤講師 藤川 章
記 録 者	青森県立弘前工業高等学校 栗林 美知子 福士 晶子

研 究 テ ー マ

紀 要 (集)	年 度	研 究 テ ー マ	会 場	会 員 数 (一 ・ 二 計 希 望)	大 参 加 数	大 会 表 者 数
56	23	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 … あたたかいかかわりづくりのために … ○「不登校と発達障害」	青森県総合社会 教育センター	124	54	1
57	24	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 … あたたかいかかわりづくりのために … ○「生徒指導コーディネーターとしての教育相談 担当者の今後の役割」	青森県総合社会 教育センター	135	56	1
58	25	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 … あたたかいかかわりづくりのために … ○「子どもたちの命を守る」	青森県立図書館	132	76	1
59	26	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「誰もが行きたくなる学校を創る」 - 生徒指導・教育相談・特別支援をデザイン する -	青森県立図書館	102	55	1
60	27	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「学校現場における学級集団づくりの在り方 ～Q-Uを活用した学級づくり～」	青森中央学院大学	127	72	1
61	28	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「インクルーシブな高校づくりの起点 ～教育相談の在り方を考える～」	アピオあおもり	134	65	0
62	29	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「家族の問題解決」	アピオあおもり	147	69	0
63	30	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「関係力を磨くGWTのすすめ！」	アピオあおもり	133	65	0
64	31 令和元	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「教育相談・学級経営に活かすグループアプロ ーチ」	青森県総合社会 教育センター	147	76	0
66	4	テーマ「教育相談の普及と定着を求めて」 …あたたかいかかわりづくりのために… ○「チーム学校」の構築	青森県総合社会 教育センター	128	63	0